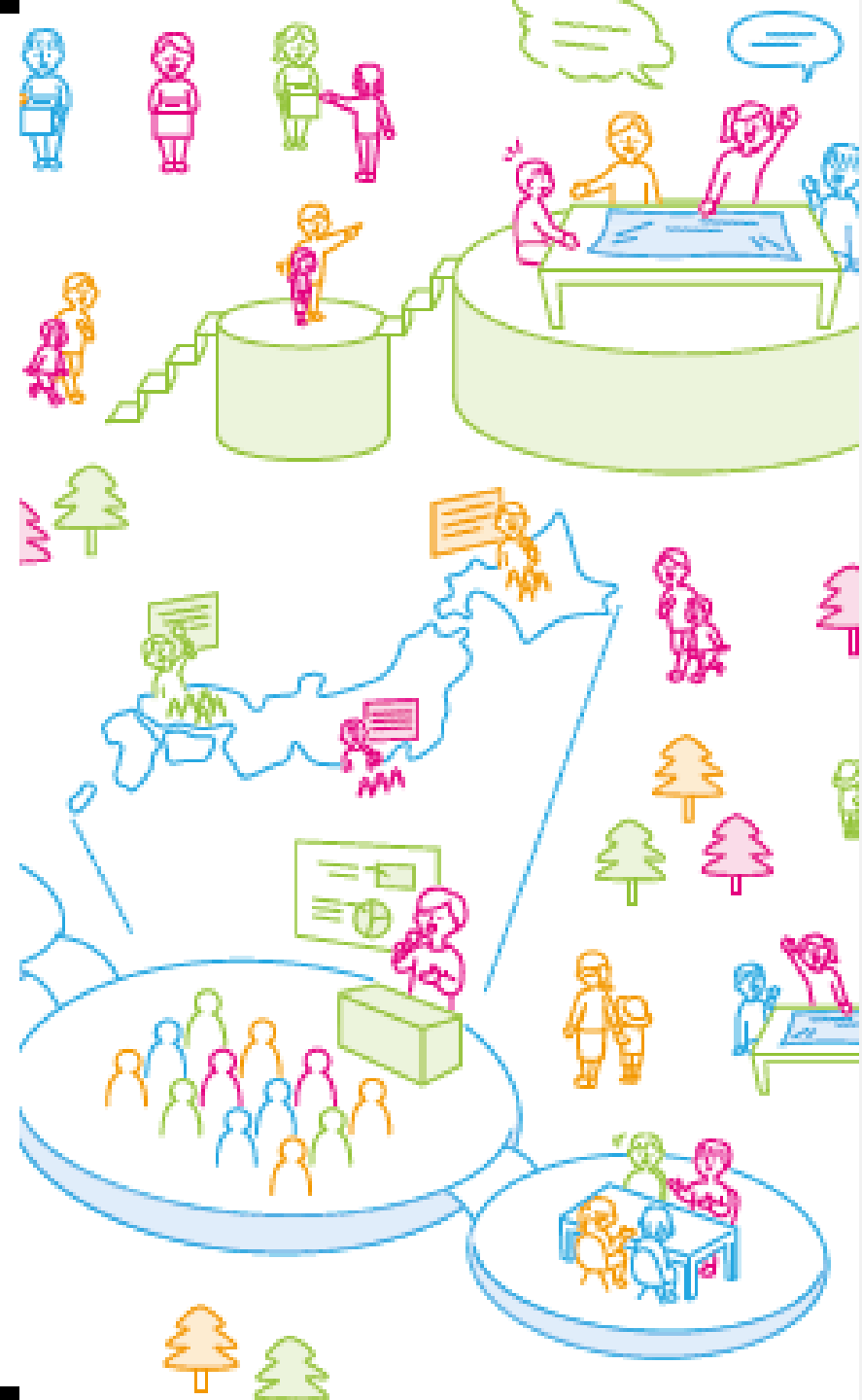




子ども・若者の貧困が 孤独・孤立を深める

「ひとりぼっちの子ども・若者がいないまち」をつくるために
第1回 孤独・孤立フォーラム

子どもの貧困対策センター
公益財団法人 あすのば
代表理事 小河光治



「子どもの貧困をなくす」民間センター 設立から6年



子どもの貧困対策センター 公益財団法人あすのば 事業概要 「子どもがセンター」の活動 おかげさまで発足6年

「子どもの貧困対策法」成立から2年を迎えた2015年6月19日に、子どもの貧困対策センター「あすのば」が設立され、2016年4月に公益財団法人として認定。おかげさまで、今年6月に発足から満6年を迎えました。

＜子どもの貧困対策センター あすのば 事業の3本柱＞

「政策提言」

調査・研究による
データなどに
基づいた
政策提言

「支援団体への中間支援」 「子どもたちへの直接支援」

活動の持続・
発展のため
支援団体への
中間支援

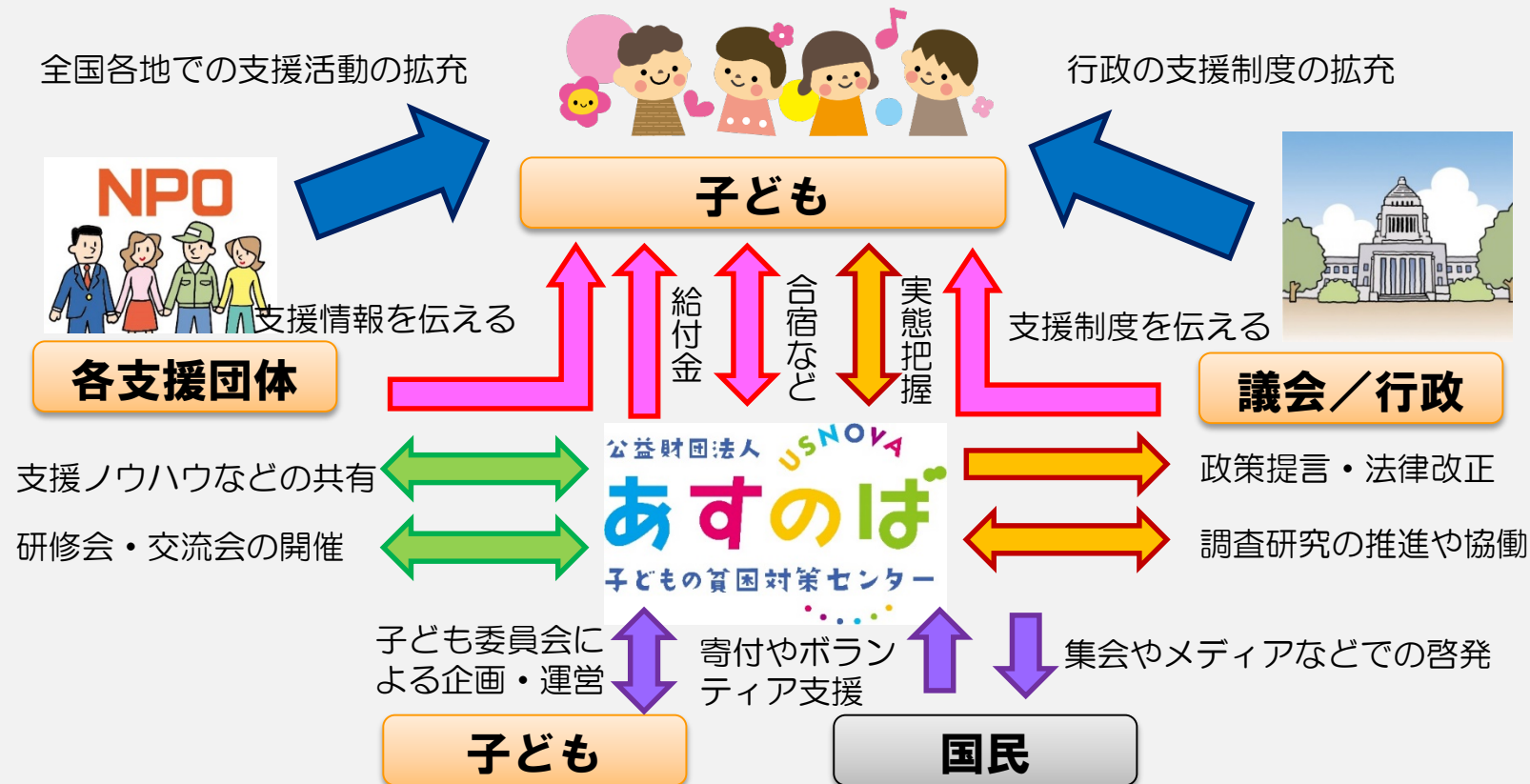
物心両面での
子どもたちへの
直接支援



子どもの貧困対策センター 公益財団法人 あすのば

子どもの貧困がなくなる社会をつくるため

- ①調査研究をし、それに基づいた政策提言・法律改正をすすめる
- ②子どもを支える組織や人を支え、全国各地で充実した支援体制の確立
- ③子どもの自立に向け、物心両面での子どもたちへの直接支援



コロナ禍支援 7,950人に3億611万円の給付金

【緊急支援給付金 第1弾】

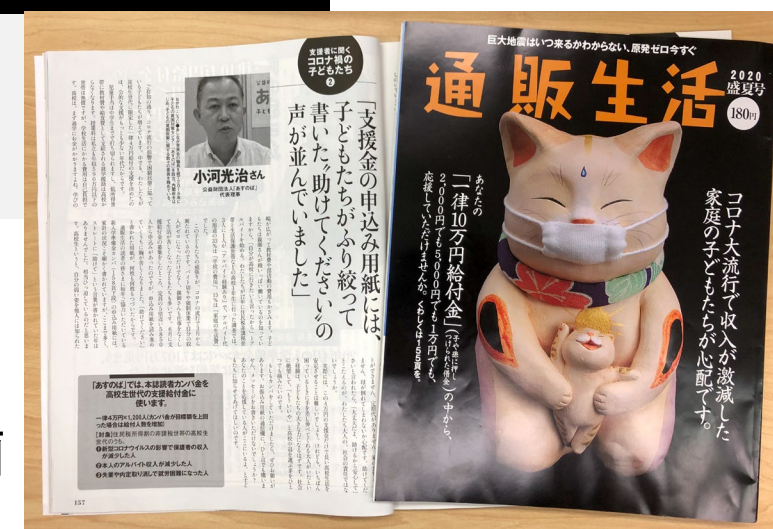
- 昨春の「入学・新生活応援給付金」申込者のうち財源不足から採用見送りとなった**1,300人へ3万円、総額3,900万円**の追加給付を計画

【緊急支援給付金 第2弾】

- 住民税非課税世帯の高校生世代で、コロナ禍によって家計急変など生活が困難になっている**子ども1,200人へ4万円、総額4,800万円**の給付を計画
- 昨年6月、全国から**定員の5倍にあたる5,867人の申込**が殺到
- 緊急支援募金プロジェクトに**21,808人(『通販生活』読者寄付を含む)**から**1億8,675万5372円**のご寄付。
- 緊急支援給付金 **4,994人に総額1億8721万円**の給付(第1弾・第2弾)

【入学・新生活給付金 第3弾】

- コロナ禍で家計急変した世帯の子どもも給付金対象に追加
今春、入学・新生活を迎えた**2,956人に総額1億1890万円**を給付



あすのは「子どもの生活と声1,500人アンケート調査」

●「子どもの生活と声 1,500 人アンケート調査」の概要

(1) アンケート対象

2016 年度に「あすのば入学・新生活応援給付金」を届けた住民税非課税世帯・生活保護世帯・社会的養護のもとで暮らした経験のある子ども本人（高校・大学生世代）と保護者（社会的養護を除いた小学～大学生世代）

(2)対象者数 子ども1,425人、

保護者 1,770 人、合計 3,195人

(3) アンケート方法 郵送法

(4) 有効回答数

子ども 547票(回答率 38.4%)

保護者 959 票(回答率 54.1%)

合計 1,506票(回答率 47.1%)

(5)調査期間 2017年10月31日から12月18日



給付金を受け取った子どもたちの声

給付金、ありがとうございます！！
自分は、野球部のマネージャーを勤めていました。
(けれど、母子家庭ということもあり、下には2人姉と弟がいることもあり、
部活動も辞めざるを得ない状況になりました。
まだ、辞めるのは決めたばかりで、いいかわかりませんが、
辞めようと思っていました。
母子家庭で、3人の子供を育て、苦しくて、
父親が、いい人じゃない人なんだと初めて気づきました。
母は、毎日、死ぬまで働いて、朝もお昼のお弁当も夜ご飯も作っていて、
初めて、母のありがたさが分かりました。
感謝するところは、大事と部活で言い聞かされたこと。
そのことが、ちゃんと分かりました。
今から、家庭を守る、と言うことなんだって。
私も大トにがんばりたいと思います！！
給付金のおかげで、学校に入りました。
とても感謝しています。
そして、もし、部活動をせめて、家族のことを助けたいなと思います。
あと、母がすごく喜んでいました！
本当にありがとうございます！！

たすけてと

言いたいとき

もある

父が仕事ができないため生活がギリギリです

たすけてください

子ども・若者の貧困がつながりを失い孤独・孤立を深める

- 86%が年収300万円未満で生活、勤労月収114,000円
- 半数が「貯金ゼロ」、4分の1が「貯金50万円未満」
- 3分の1の高校1年生がアルバイトの経験「あり」
- バイトの使途「携帯電話」36%、「学校の費用」33%、「生活費」15%
- 経済的理由で断念「塾・習い事」69%、「洋服や靴など」52%、「携帯電話」30%、「海水浴やキャンプなど」25%
- 幼少期から困窮の子ほど、さまざまな経験をあきらめている傾向

貧困が原因で、子どもにとって大切なものや経験を幼いときから剥奪され続けることで、さまざまなつながりを失い、孤独・孤立に追いやられている子ども・若者が少なくない。



「ひとりぼっちの子ども・若者がいないまち」をつくるために！

子育て世帯全体への普遍的施策と困窮世帯へのさらに手厚い施策の拡充

- もれのない支援 手続きの必要なし スティグマを生まない
 - 困窮世帯の子どもがお金がなくてあきらめることのないように
- 「児童手当」の高校卒業時まで延長と低所得世帯には加算を！

- すべてのまちに子ども・若者の「第3の居場所」を！
 - ・こども食堂、学習・生活支援、トワイライトステイなどの居場所など
 - ・企業の支援→社食でこども食堂、人材の派遣、会社の空きスペースの活用など
- 「第2の居場所(学校)」をプラットフォームに＝教育×福祉×地域×NPOなど
 - ・常勤で正規雇用のスクールソーシャルワーカーの活躍
 - ・校内居場所カフェの設置





アフターコロナでめざすべき社会は？
社会全体で子育てする社会を！

“US NOVA”つくろう！

子どもの貧困対策センター 公益財団法人 あすのば

〒107-0052 東京都港区赤坂3-21-6河村ビル6F

TEL:03-6277-8199 FAX:03-6277-8519

E-mail: info@usnova.org

WEB: www.usnova.org



公益財団法人
あすのば